

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970900126		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム えやんばい		
所在地	高知県宿毛市平田町戸内1822-2		
自己評価作成日	平成29年9月10日	評価結果 市町村受理日	平成29年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ敷地内に病院、老人保健施設、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、居宅支援事業所等さまざまな施設が立ち並び、協力病院とは24時間体制で連携が取れており、緊急時迅速な対応が可能で、病気や怪我をしたとき等に、往診により治療してもらえることで、家族に安心感を持ってもらっています。

事業所納涼祭も毎年盛大に行っており、地域のお祭りとして沢山の方に来てもらっております。事業所理念として「一人一人を大切に、いい塩梅生活、いい塩梅のケアを提供する事を目指します」と掲げており、個別ケアを大切にしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihontrue&ji_gyosyoCd=3970900126-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年10月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の同じ敷地内に協力病院があり、月2回の訪問診療、訪問看護、ターミナルケアなど、医療と連携ができる体制が取れており、利用者や家族の安心につながっている。母体法人主催の納涼祭には、毎年多くの地域住民の参加もあり、地域のお祭りとして定着してきている。

職員は、利用者一人ひとりのペースを大切に心がけ、「体調を崩さないように、いい塩梅で永く過ごして欲しい」と、利用者から笑顔で返してもらえるように接しており、「いい塩梅の生活」「いい塩梅のケア」に取り組んでいる。

今年の運営方針として、「季節感あふれる暮らし作りに努め、旬の食材を職員でアレンジしたり、四季折々の楽しみ事を工夫すること」に取り組んでいる。管理者は、理念の実現に向けて、ユニット会等での職員間のチームワークを大切にして、質の高いケアを実践している。そのチームワークにより、事業所は和やかな雰囲気にもまれ、利用者と職員の笑顔があふれている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:もんちきち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>個別ケアに重点を置き、全職員が理念を基にケアに取り組んでいる。ケア会議では、自分が理念を基にどのようなことを心掛けているかも話し合うほか、利用者一人ひとりの具体的なケアについての意見も出し合って、ケアの統一を図っている。</p>	<p>開設当初からの理念である、利用者個々の時間を大切に、個別ケアに取り組むことで、「いい塩梅」の暮らしに努めている。運営方針は利用者に合わせ毎年見直しをしており、職員もその都度自己目標を立て、ユニット会等での共有も図って、実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>市内の中学生が福祉体験に来てくれたり、看護学生が実習に来たりしている。納涼祭は地域のお祭りとして定着している。敬老会では、地元住民が踊りを披露してくれた。月1回歌の演奏会がある。地域住民から、野菜やタケノコをもらったりしている。</p>	<p>地区会に加入し、地域の一員として清掃活動に職員が参加している。母体法人全体の納涼祭は、地域のお祭りとして利用者も楽しみにしている。敬老会での地元住民の踊りや、月1回エレクトーンの演奏会では、家族が演奏してくれている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>人材育成のため積極的にボランティアを受け入れ、中学生、看護専門学生が頻繁に実習に来てくれている。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の状況や家族会での要望、外部評価結果等を報告をし、意見を聞いてサービスの向上に努めている。地域の水害対策等地区長にも相談したり、意見を聞いたりしている。</p>	<p>会議には、地域代表や行政関係者が出席し、現状報告をするほか、課題事項を協議している。地域の水害については、地区長が県に働きかけをしたり、母体法人の協力で避難時の非常用簡易マットを整備している。会議録は家族に送付し、周知している。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の担当者との関係は良好で、色々相談に乗ってもらったり、アドバイスを受けている。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議で意見をもらったり、利用者に関する相談等をしており、協力関係が出来ている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止委員会があり、職員会で、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為についての話し合いや、勉強会を行っている。母体法人が行う研修会等にも参加し、身体拘束の弊害等について職員全員で話し合っ、理解を深めている。</p>	<p>事業所独自の身体拘束廃止委員会が内部研修を行い、禁止の対象となる具体的な行為や弊害について理解に努めている。入所前、病院で拘束されていた利用者に対しても、寄り添うケアに取り組むことで、身体拘束をしないケアの実践につなげている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人が行う研修会に参加し、職員会でも勉強会を行っている。高齢者虐待法に関する理解や、防止について取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人内で研修会を行ったり、新人研修で必要性について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用料金、起りうるリスク、医療連携等について丁寧に説明している。入院し、退所した場合でも、戻れるような状態になれば、優先的に受け入れることも説明し、安心してもらっている。契約書の内容変更についても説明し、文章での同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時等に気軽に何でも言ってもらえるよう、お茶を出したり、積極的に近況を伝えるようにしている。家族会で出された要望や、日々出された要望等はユニット会で話し合い、職員全員が統一した対応ができるよう努めている。	年1回の家族会や運営推進会議、面会時に家族の意見を聞いている。玄関に「ご意見箱」や苦情相談第三者委員を設置して、苦情処理規程も作成しているが、ここ数年意見は出ていない。	事業所には世話になっているからの理由で、意見や要望、不満を言うことをためらう家族、利用者の心情を察し、積極的に意見や要望が伝えられる取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や日々の業務の中で、職員一人ひとりが自分の意見や思いを言うことができるよう、配慮している。職員全員、活発に意見を言ってくれている。	ユニット会等で、職員の意見や思いを言いやすい環境づくりに努めている。就労時間の見直しや、休日出勤の手当等、働きやすい職場作りと職員のモチベーションの維持に努めており、事業所の離職率は低い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が研修に参加できるよう、配慮している。向上心をもって働けるよう、研修費用の支給、特別休暇扱い等により、資格取得に向けた支援も行っている。個人の努力や実績により臨時職員が正規職員になれるようにし、有給休暇が取りやすい環境整備にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内研修、事業所内研修を行っている。外部研修に、どの職員も参加できるように計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宿毛市社協主催の介護初任者研修に講師として参加し、同業者との意見交換の場にもなった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人に合った心身の状態や、本人の思いを聞いたり、見学に来てもらったり、会いに行ったりして、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から相談ごとや要望を聞き、事業所としての対応等を説明して、安心してサービス利用してもらえるよう、細かい話し合いも出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受ける際には、空室が無く即座に対応することが困難な場合が多いが、他のサービス利用を提案したり、居宅支援事業所との連携を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側と言う意識を持たず、お互い助け合いながら生活していると言う思いで、利用者に接している。職員が知らない時代の話しや生活の知恵などを教えてもらったりして、職員は感謝している。掃除や洗濯物干し、畳み等、利用者にも出来ることは手伝わってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の故郷訪問のほか、面会時には家族と過せる時間を大切にしている。季刊誌発行時には、家族に利用者の近況報告も添えて送っている。何かあればすぐ電話をして、報告や相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷訪問を実施をしている。入所前に生活していた場所、家族の家、懐かしい人との再会への支援を計画し、実践している。	年1回、車イス利用者も参加出来るよう工夫して、自宅、家族の家、懐かしい場所等への故郷訪問を実施している。家族の協力により、行きつけの美容院や外食に一緒に出かけている利用者もいる。近隣の訪問理容師とは、新しい馴染みの関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支え合う生活が出来ている。隣りの人にお茶を勧めたり、片づけられない人のコップ等を下げたり、洗濯物を畳んだり、落ち着かない人に声を掛けたりと、お互いを気遣いながら生活出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所した利用者に会いに行ったり、施設に情報を提供したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりの中で利用者の真意を知る努力をしている。これまでの生活歴を踏まえ、家族からの情報を得ながら、利用者の希望や意向に添えるよう努めている。表情や行動等からも思いが感じ取れるよう、職員間で情報共有にも努めている。	会話が出来ない利用者が4名いるが、表情、行動等から思いが感じ取れるようにしている。記録はセンター方式を活用し、6ヶ月毎に私の姿と気持ちシート(心身の情報)を見直しており、介護計画のきめ細やかな支援につながっている。情報は、ユニット会等で職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の施設や、ケアマネージャーから情報を収集したり、家族から情報を得たり、故郷訪問で情報を得たりと、利用者のこれまでの暮らしの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するように努めている。小さな動作等から感じ取り、対応ができるよう、ユニット会等で職員間で話し合い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望や本人が生きがいにしていること等を考慮し、毎月職員会でモニタリングして、介護計画を作成している。	アセスメントは担当職員が行い、毎月のユニット会で利用者全員のモニタリングを行っている。6ヶ月に1回の見直しを原則として、状態変化時にも介護計画を見直している。家族からは、計画作成前に意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態の変化や対応等について、個人ケースに記録するようにしており、申し送りノートや業務日誌で職員間の情報共有が出来ている。担当職員を中心に、利用者の思い等、細かい部分まで把握するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて希望を聞き、個々のニーズに対して柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地区長、民生委員が参加している。地域包括支援センターの職員とも情報交換し、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	特に勤めている訳ではないが、協力病院を係りつけ医としている利用者が多い。希望があれば、他病院への通院の送迎等の支援もしている。歯科の訪問診療等、利用者に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。	多くの利用者が近くの協力病院をかかりつけ医にしており、月2回の訪問診療や訪問看護を受けている。他の専門医受診は、希望があれば送迎支援している。受診結果は家族に報告し、個人ケースへの記録により職員間で共有している。訪問歯科診療も受診支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の定期訪問があり、健康管理や状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。協力病院の定期的な往診と、随時の通院支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には繰り返し面会に行き、本人、家族との連絡を密にし、安心して治療出来るようにしている。日ごろから、病院との連携、情報交換出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を作成し、同意書を取っている。本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心、納得した最期を迎えられるように、随時家族と話し合いながら取り組んでいる。	重度化の指針を作成し、同意書を入所時にもらうとともに、重度化の際には、改めて話し合っている。協力機関、訪問看護との医療連携がとれており、今まで看取った事例も多い。今年も1名あり、職員で看取りの研修やターミナル用品の確認など、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回、緊急時対応の訓練を行っている。定期的に事故対策の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、火災、地震の避難訓練を実施している。水害に関しては、他部署の協力が得られるようマニュアル化しており、訓練と併せて細かい行動等を常に話し合っている。	年2回の母体法人全体の夜間想定火災・大地震想定避難訓練のほか、事業所独自で火災や地震、水害の訓練をしている。消防署、地区長、地域住民の協力もある。水害については、毎年利用者の状態に応じてマニュアルの見直しをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまにトイレの声掛け等しないように気をつけている。声に出して誘わなければ伝わらない場合もあるが、配慮して誘うようにしている。また、利用者の仕草等のサインを読み取って、スムーズな誘導に努めている。	排泄誘導時には、声の大きさや言葉がけに気をつけており、一緒に付き添うようにしている。各居室のトイレを利用するが、その際は入り口の戸を閉め、窓のカーテンも閉める配慮をしている。職員は、利用者のプライバシーを他者に明かさなことを徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給の飲み物の希望を利用者に聞いたり、おやつを選んでもらったり、聞きたい音楽をかけたりしている。衣類も自分で選んで着ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴、食事等、その日の気分により、本人のペースや時間を大切にするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師を利用する利用者、家族が美容師でカットする利用者それぞれだが、好みのヘアスタイルに合わせ、ヘアキャップや衣類等、その人らしさを保たさせている。職員は、同じ服を着ていないかの配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と一緒に食卓を囲み、会話しながら食事を楽しんでいる。仲の良い利用者同士が同じテーブルになるように、配慮している。野菜の皮剥ぎを手伝ったり、自分のコップをを流し台まで持って来たり、利用者もできることをしている。	母体法人の管理栄養士が作成した献立を職員がアレンジし、季節感のある食事作りを心がけ、特別メニューも楽しめる。利用者は出来ることを手伝い、職員は一人ひとりに合わせて、刻みやミキサー食等の工夫をしている。職員も、一緒に楽しく食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食は、利用者それぞれに合った量にしている。利用者に応じて、食べやすいように刻み、トロミ等の対応をしている。水分摂取が困難な利用者には、アメ湯やコーヒーなどを嗜好に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに合わせて、口腔ケアをしている。クロスガーゼやスポンジブラシ等を、状態に合わせて使用している。入れ歯の利用者は、毎日洗浄剤で消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、尿意の無い利用者も時間誘導することで、トイレ、ポータブルトイレでの排泄の維持に努めている。	排泄の自立した利用者は4名であるが、排泄チェック表を活用しながら個々の居室に誘導し、トイレやポータブルトイレでの排泄維持に努めている。病院からの入所の利用者で、紙オムツから、布パンツとパッドに戻れた事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防への取り組みでは、職員は、水分確保と身体を動かすことの重要性を理解している。トイレに座ったりポータブル誘導するなど、排便しやすい姿勢にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿って入浴してもらっている。入浴が好きでない利用者には、言葉掛けやタイミングの工夫で入浴を促す支援している。体調が悪いときには、清拭で清潔を維持している。お風呂好きで、毎日入浴する利用者もいる。	体調面からシャワー入浴主体の利用者が9名おり、必要に応じて職員が複数で浴槽入浴を支援している。入浴拒否の利用者には、言葉掛けやタイミングを工夫し、入浴につなげている。毎日入浴する利用者も、2名いる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活のペースで昼寝したり、心地よく眠りにつけるよう、日中の活動に配慮している。眠剤を飲んでいる利用者は、睡眠状態を把握して、記録している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明書を職員全員が見られるよう、ファイルにしている。薬の変更は、業務日誌で申し送りしている。服薬間違いがないよう、3人の職員が確認するようにマニュアルを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の得意分野で力を発揮してもらえるよう、洗濯等の仕事を頼む一方で、職員は、感謝の気持ちを伝えるようにしている。好きな音楽をかけて、楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	故郷訪問や、馴染みの場所訪問を行っている。家族との外出支援もしている。重度で長時間の離床が困難な利用者が元気だった頃の本人の作品の展示会があり、職員の同行支援で見に行ったところ、本人、家族に大変喜ばれたことがある。	車イス利用者が6名いるが、天気の良い日は、職員と一緒に近くの川辺に散歩に出かけている。体調面から外出が少なくなっているが、故郷訪問や家族と外食したりしている。また、職員が作った弁当持参で、季節のドライブに出かけることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で金銭管理をしている利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話を掛けられる利用者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具の配置は、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。四季を感じてもらえるように生花を飾ったり、壁への飾りつけの工夫もしている。	共用空間での生活感、季節感を大事にし、利用者がゆっくり寛げるようにテーブル、テレビ、ソファが配置されている。職員の間で共用空間係を決め、職員の顔写真、居室ネームプレートの工夫、絵画の飾り付け等、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にくつろげるよう、ソファの位置を工夫し、仲の良い利用者同士で会話ができるようにしている。お気に入りの席がある利用者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や飾りもの、仏壇等の思い出の品が持ち込まれ、落ち着いて生活できるよう、家族にも協力してもらっている。	各居室にはトイレ、洗面台が設けられている。家族の協力も得て、慣れ親しんだダンス、ソファ、テレビ、仏壇などが持ち込まれている。また、利用者が寂しくないよう家族との写真も飾られ、落ち着いた空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体の状況に合わせて手すりを設置したり、ベッドの位置や、家具の配置の工夫により、自立した生活が出来るよう、検討と工夫をしている。		

ユニット名:

もんちきち

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名:いちきち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会の時、理念を念頭にどのようなケアを心がけているか、互いに話しあっている。利用者一人ひとりの具体的なケアについて意見を出し合い、ケアの統一を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内の中学生が福祉体験に来てくれたり、看護学生が実習に来たりしている。納涼祭は地域のお祭りとして定着している。敬老会では、地元住民が踊りを披露してくれた。月1回歌の演奏会がある。地域住民から、野菜やタケノコをもらったりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成のため積極的にボランティアを受け入れ、中学生、看護専門学生が頻繁に実習に来てくれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や家族会での要望、外部評価結果等を報告をし、意見を聞いてサービスの向上に努めている。地域の水害対策等地区長にも相談したり、意見を聞いたりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者との関係は良好で、色々相談に乗ってもらったり、アドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、職員会で、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為についての話し合いや、勉強会を行っている。母体法人が行う研修会等にも参加し、身体拘束の弊害等について職員全員で話し合っ、理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人が行う研修会に参加し、職員会でも勉強会を行っている。高齢者虐待法に関する理解や、防止について取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人内で研修会を行ったり、新人研修で必要性について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用料金、起りうるリスク、医療連携等について丁寧に説明している。入院し、退所した場合でも、戻れるような状態になれば、優先的に受け入れることも説明し、安心してもらっている。契約書の内容変更についても説明し、文章での同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時等に気軽に何でも言ってもらえるよう、お茶を出したり、積極的に近況を伝えるようにしている。家族会で出された要望や、日々出された要望等はユニット会で話し合い、職員全員が統一した対応ができるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や日々の業務の中で、職員一人ひとりが自分の意見や思いを言うことができるよう、配慮している。職員全員、活発に意見を言ってくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が研修に参加できるよう、配慮している。向上心をもって働けるよう、研修費用の支給、特別休暇扱い等により、資格取得に向けた支援も行っている。個人の努力や実績により臨時職員が正規職員になれるようにし、有給休暇が取りやすい環境整備にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内研修、事業所内研修を行っている。外部研修に、どの職員も参加できるように計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年度は交流研修で他施設から研修に来ていたが、今年度は実施できていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人に合った心身の状態や、本人の思いを聞いたり、見学に来てもらったり、会いに行ったりして、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から相談ごとや要望を聞き、事業所としての対応等を説明して、安心してサービス利用してもらえるよう、細かい話し合いも出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受ける際には、空室が無く即座に対応することが困難な場合が多いが、他のサービス利用を提案したり、居宅支援事業所との連携を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側と言う意識を持たず、お互い助け合いながら生活していると言う思いで、利用者に接している。職員が知らない時代の話しや生活の知恵などを教えてもらったりして、職員は感謝している。掃除や洗濯物干し、畳み等、利用者にも出来ることは手伝わってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の故郷訪問のほか、面会時には家族と過せる時間を大切にしている。季刊誌発行時には、家族に利用者の近況報告も添えて送っている。何かあればすぐ電話をして、報告や相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷訪問を実施をしている。入所前に生活していた場所、家族の家、懐かしい人との再会への支援を計画し、実践している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士支えあった生活が出来ている。隣りの人にお茶を勧めたり、片づけられない人のコップを下げてたり、落ち着かない人に声を掛けたりと、気遣いしながら生活出来ている。利用者同士が昔話して盛り上がる事が多く、ソファの設置位置を工夫した。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所した利用者に会いに行ったり、施設に情報を提供したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりの中で利用者の真意を知る努力をしている。これまでの生活歴を踏まえ、家族からの情報を得ながら、利用者の希望や意向に添えるよう努めている。表情や行動等からも思いが感じ取れるよう、職員間で情報共有にも努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の施設や、ケアマネージャーから情報を収集したり、家族から情報を得たり、故郷訪問で情報を得たりと、利用者のこれまでの暮らしの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するように努めている。小さな動作等から感じ取り、対応ができるよう、ユニット会等で職員間で話し合い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望や本人が生きがいにしていること等を考慮し、毎月職員会でモニタリングして、介護計画を作成している。担当職員を中心に、利用者の思いを細かく把握することに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態の変化や対応等について、個人ケースに記録するようしており、申し送りノートや業務日誌で職員間の情報共有が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて希望を聞き、個々のニーズに対して柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地区長、民生委員が参加している。地域包括支援センターの職員とも情報交換し、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が近いことから、特に勧めている訳ではないが、協力病院を係りつけ医としている利用者が多い。希望があれば、他病院への通院の送迎等の支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の定期訪問があり、健康管理や状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。協力病院の定期的な往診と、随時の通院支援も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には繰り返し面会に行き、本人、家族との連絡を密にし、安心して治療出来るようにしている。日ごろから、病院との連携、情報交換出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を作成し、同意書を取っている。本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取り、安心、納得した最期を迎えられるように、随時家族と話し合いながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回、緊急時対応の訓練を行っている。定期的に事故対策の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、火災、地震の避難訓練や、水害訓練を実施している。非常食1週間分を備蓄している。水害に対して他部署の協力が得られるようマニュアル化しており、訓練と併せて細かい行動等を常に話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまにトイレの声掛け等しないように気をつけている。声に出して誘わなければ伝わらない場合もあるが、配慮して誘うようにしている。また、利用者の仕草等のサインを読み取って、スムーズな誘導に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	見たいテレビ番組が見られるよう配慮したり、好きなDVDを観たい時に観られるよう、利用者の要望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴、食事等、その日の気分により、本人のペースや時間を大切にするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師を利用する利用者、家族が美容師でカットする利用者それぞれだが、好みのヘアスタイルに合わせ、ヘアキャップや衣類等、その人らしさを保たさせている。職員は、同じ服を着ていないかの配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と一緒に食卓を囲み、会話しながら食事を楽しんでいる。仲の良い利用者同士が同じテーブルになるように、配慮している。野菜の皮剥ぎを手伝ったり、自分のコップをを流し台まで持って来たり、利用者もできることをしている。。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食は、利用者それぞれに合った量にしている。利用者に応じて、食べやすいように刻み、トロミ等の対応をしている。水分摂取が困難な利用者には、ゼリーを作る工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに合わせた、口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、尿意の無い利用者も時間誘導することで、トイレ、ポータブルトイレでの排泄の維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、水分確保や、身体を動かすことが大切だということを理解して、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿って入浴してもらっている。入浴が好きでない利用者には、言葉掛けの工夫やタイミングの工夫で入浴を促す支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活のペースで昼寝したり、心地よく眠りにつけるよう、日中の活動に配慮している。眠剤を飲んでいる利用者は、睡眠状態を把握して、記録している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明書を職員全員が見られるよう、ファイルにしている。薬の変更は、業務日誌で申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の得意分野で力を発揮してもらえるよう、洗濯等の仕事を頼む一方で、職員は、感謝の気持ちを伝えるようにしている。好きな音楽をかけて、楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	故郷訪問や馴染みの場所訪問を行っている。家族との外出支援もしている。屋外に出たい利用者に対しては、散歩等で外に出る機会を作っている。本人も終末期に近かった利用者が、配偶者が先に亡くなり、最期のお別れに職員が自宅への同行支援をして、家族から大変喜ばれたことがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で金銭管理をしている利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたり、娘と手紙のやりとりをしている利用者には、手紙が書けるよう準備したり、郵送する支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具の配置は、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。四季を感じてもらえるように生花を飾ったり、壁への飾りつけの工夫もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にくつろげるよう、ソファの位置を工夫し、仲の良い利用者同士で会話ができるようにしている。お気に入りの席がある利用者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や飾りもの、仏壇等の思い出の品が持ち込まれ、落ち着いて生活できるよう、家族にも協力してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体の状況に合わせて手すりを設置したり、ベッドの位置や、家具の配置の工夫により、自立した生活が出来るよう、検討と工夫をしている。		

ユニット名:

いちきち

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				